

コマツ
2016年度 第2四半期(中間)
決算説明会

2016年10月28日(金)

コマツ出席者

代表取締役社長(兼)CEO	大橋 徹二
代表取締役副社長(兼)CFO	藤塚 主夫
常務執行役員経営管理部長	稲垣 泰弘

I. 2016年度 第2四半期(中間)決算の概要 <P3-P14>

- P4-7 : 2016年度第2四半期(7-9月)の概況・各セグメント売上高と利益
P8-9 : 2016年度上期(4-9月)の概況・各セグメント売上高と利益
P10-11 : <建設機械・車両> 2016年度上期(4-9月)の状況
P12 : <リテールファイナンス> 2016年度上期(4-9月)の状況
P13 : <産業機械他> 2016年度上期(4-9月)の状況
P14 : 連結貸借対照表

II. 2016年度の見通し <P15-P28>

- P16 : 2016年度の業績見通し(概況)
P17-22 : <建設・鉱山機械> 主要7建機需要推移と見通し(全体及び地域別)
P23-24 : <建設・鉱山機械> 鉱山機械の状況
P25 : <建設・鉱山機械> 部品の売上高
P26 : 2016年度の売上高・営業利益の進捗と見通し

参考資料 <P29-P35>

- P30-33 : 四半期毎の状況
P34-35 : BBレシオ〔受注/売上指数(6ヶ月)〕

I . 2016年度 第2四半期(中間)決算の概要

- ・連結売上高は前年同期比▲8.9%減収の4,068億円。
- ・営業利益は前年同期比▲30.4%減益の343億円。売上高営業利益率は同▲2.6ポイント減の8.4%。
- ・純利益は前年同期比▲32.7%減益の219億円。

金額単位：億円	2015年7-9月 ¥122.6/USD ¥136.2/EUR ¥19.5/RMB	2016年7-9月 ¥102.9/USD ¥114.6/EUR ¥15.4/RMB	前年同期比	
			増減	増減率
連結売上高	4,463	4,068	▲395	▲8.9%
セグメント利益	488	352	▲135	▲27.8%
その他の営業収益(▲費用)	5	▲8	▲14	-
営業利益	493	343	▲149	▲30.4%
売上高営業利益率	11.0%	8.4%	▲2.6ポイント	-
その他の収益(▲費用)	▲23	▲4	+19	-
税引前純利益	469	338	▲130	▲27.8%
純利益*	325	219	▲106	▲32.7%

*米国財務会計基準審議会会計基準編纂書810の適用による「当社株主に帰属する四半期純利益」

□為替レートについてですが、円は主要通貨およびその他の通貨に対して円高となりました。

□連結売上高は、前年比▲8.9%減収の4,068億円、営業利益は▲30.4%減益の343億円となりました。営業利益率は▲2.6ポイント減の8.4%です。

□純利益は▲32.7%減益の219億円です。

- ・建設機械・車両部門の売上高は、▲7.1%減収の3,534億円。セグメント利益は▲23.4%減益の312億円。セグメント利益率も▲1.9ポイント悪化し、8.8%。
- ・リテールファイナンス部門の売上高は、▲14.0%減収の116億円。セグメント利益は▲38.2%減益の23億円。
- ・産業機械他部門の売上高は、▲21.1%減収の442億円。セグメント利益は▲44.9%減益の23億円。

□ : 利益率 () : 外部顧客向け売上高

金額単位：億円	2015年7-9月	2016年7-9月	前年同期比	
			増減	増減率
売上高	4,463	4,068	▲395	▲8.9%
建設機械・車両	(3,780) 3,805	(3,518) 3,534	(▲261) ▲270	(▲6.9%) ▲7.1%
リテールファイナンス	(127) 135	(109) 116	(▲18) ▲18	(▲14.2%) ▲14.0%
産業機械他	(555) 560	(440) 442	(▲115) ▲118	(▲20.8%) ▲21.1%
消去	▲36	▲24	+12	-
セグメント利益	10.9% 488	8.7% 352	▲135	▲27.8%
建設機械・車両	10.7% 407	8.8% 312	▲95	▲23.4%
リテールファイナンス	28.0% 37	20.1% 23	▲14	▲38.2%
産業機械他	7.6% 42	5.3% 23	▲19	▲44.9%
消去または全社	▲0	▲6	▲6	-

各セグメントの状況：

- 建設機械・車両
北米・欧州において一般建機の需要を着実に取り込んだものの、円高の影響等により、前年同期比で減収減益。尚、為替影響を除いたベースでは増収。
- リテールファイナンス【2016年度からリテールファイナンスを事業セグメントとして独立】
円高の影響と中国およびオセアニア等での資産減少の影響もあり、前年同期比で減収減益。
- 産業機械他
自動車業界向けの鍛圧機械および工作機械の販売減少と、旧コマツハウスの連結除外(※)の影響により、前年同期比で減収減益。

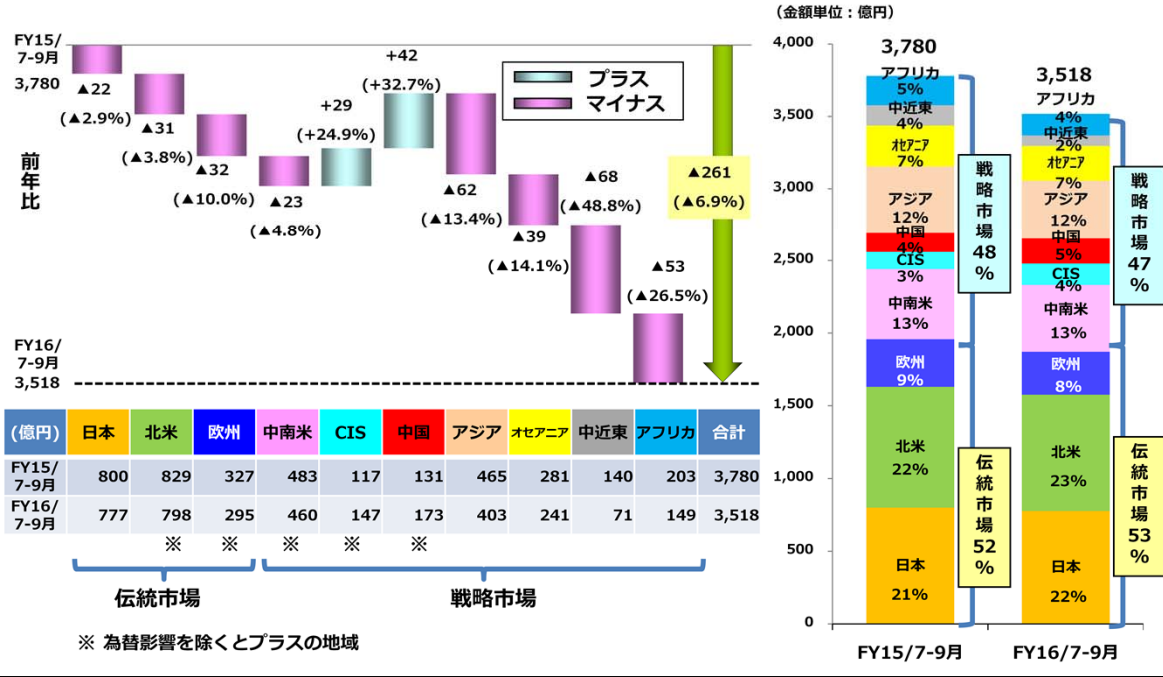
(※)2016年4月28日に発行済株式総数の85%に相当する株式を日成ビルド工業株式会社に譲渡完了(2016年4月28日ニュースリリース)

□建設機械・車両の売上高は、前年同期比▲7.1%減収の3,534億円、セグメント利益は▲23.4%減益の312億円となりました。伝統市場の北米や欧州で一般建設機械の需要を着実に取り込み、物量は増加しました。しかし、円高の影響もあり、前年同期比で減収減益となりました。

□リテールファイナンスは、円高の影響ならびに中国およびオセアニアなどの資産の減少が影響し、売上高は前年同期比▲14.0%減収の116億円、セグメント利益は▲38.2%減益の23億円となりました。

□産業機械他の売上高は、▲21.1%減収の442億円、セグメント利益は▲44.9%減益の23億円となりました。自動車業界向けの鍛圧機械および工作機械の販売減少と、旧コマツハウスの連結除外による減収が影響しました。

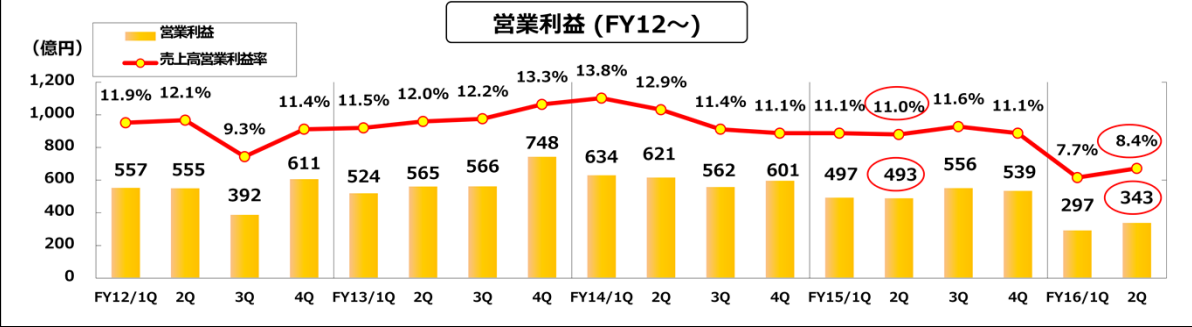
- ・外部顧客向け売上高は前年同期比▲6.9%減収の3,518億円。
- ・CISと中国を除く地域で、売上が減少。中近東・アフリカ等の戦略市場における減少が大きく、伝統市場の比率が53%に増加。但し、為替影響を除くベースでは堅調の地域が多い。



□建設機械・車両の売上高は、前年同期比▲6.9%減収の3,518億円となりました。

□CISと中国を除く地域で、売上高が減少しました。中近東・アフリカ等の戦略市場における減少が大きく、伝統市場の比率が53%に増加しました。

四半期毎の売上高と営業利益の推移



- ・連結売上高は前年同期比▲10.8%減収の7,961億円。
- ・営業利益は前年同期比▲35.2%減益の641億円。売上高営業利益率は同▲3.0ポイント減の8.1%。
- ・純利益は前年同期比▲42.4%減益の375億円。

金額単位：億円	2015年上期 ¥121.9/USD ¥134.6/EUR ¥19.5/RMB	2016年上期 ¥106.3/USD ¥119.5/EUR ¥16.1/RMB	前年同期比	
			増減	増減率
連結売上高	8,924	7,961	▲963	▲10.8%
セグメント利益	984	642	▲341	▲34.7%
その他の営業収益(▲費用)	6	▲1	▲7	-
営業利益	990	641	▲348	▲35.2%
売上高営業利益率	11.1%	8.1%	▲3.0ポイント	-
その他の収益(▲費用)	▲11	▲60	▲48	-
税引前純利益	978	580	▲397	▲40.6%
純利益*	650	375	▲275	▲42.4%
1株当たり配当金(円)	29円	29円	±0円	

*米国財務会計基準審議会会計基準編纂書810の適用による「当社株主に帰属する四半期純利益」

- 為替レートは、1ドル：106.3円、1ユーロ：119.5円、1元：16.1円です。前年同期比で、円はドル、ユーロ、元に対して円高となりました。また、その他の通貨に対しても、同様に円高となりました。
- 2016年度上期の連結売上高は、前年比▲10.8%減収の7,961億円、営業利益は▲35.2%減益の641億円となりました。営業利益率は▲3.0ポイント減の8.1%です。
- 売上高は、円高と産業機械他セグメントにおける物量減が影響しました。
- 純利益は▲42.4%減益の375億円です。

- ・建設機械・車両部門の売上高は、▲9.6%減収の6,986億円。セグメント利益は▲30.8%減益の576億円。セグメント利益率も▲2.6ポイント悪化し、8.2%。
- ・リテールファイナンス部門の売上高は、▲14.1%減収の234億円。セグメント利益は▲44.1%減益の42億円。
- ・産業機械他部門の売上高は、▲21.6%減収の790億円。セグメント利益は▲46.1%減益の40億円。

□ : 利益率 () : 外部顧客向け売上高

金額単位：億円	2015年上期	2016年上期	前年同期比	
			増減	増減率
売上高	8,924	7,961	▲963	▲10.8%
建設機械・車両	(7,670) 7,728	(6,952) 6,986	(▲717) ▲742	(▲9.3%) ▲9.6%
リテールファイナンス	(258) 273	(222) 234	(▲35) ▲38	(▲13.8%) ▲14.1%
産業機械他	(996) 1,007	(785) 790	(▲211) ▲217	(▲21.2%) ▲21.6%
消去	▲84	▲50	+34	-
セグメント利益	□ 11.0% 984	□ 8.1% 642	▲341	▲34.7%
建設機械・車両	□ 10.8% 832	□ 8.2% 576	▲256	▲30.8%
リテールファイナンス	□ 27.6% 75	□ 18.0% 42	▲33	▲44.1%
産業機械他	□ 7.5% 75	□ 5.1% 40	▲34	▲46.1%
消去または全社	1	▲16	▲17	-

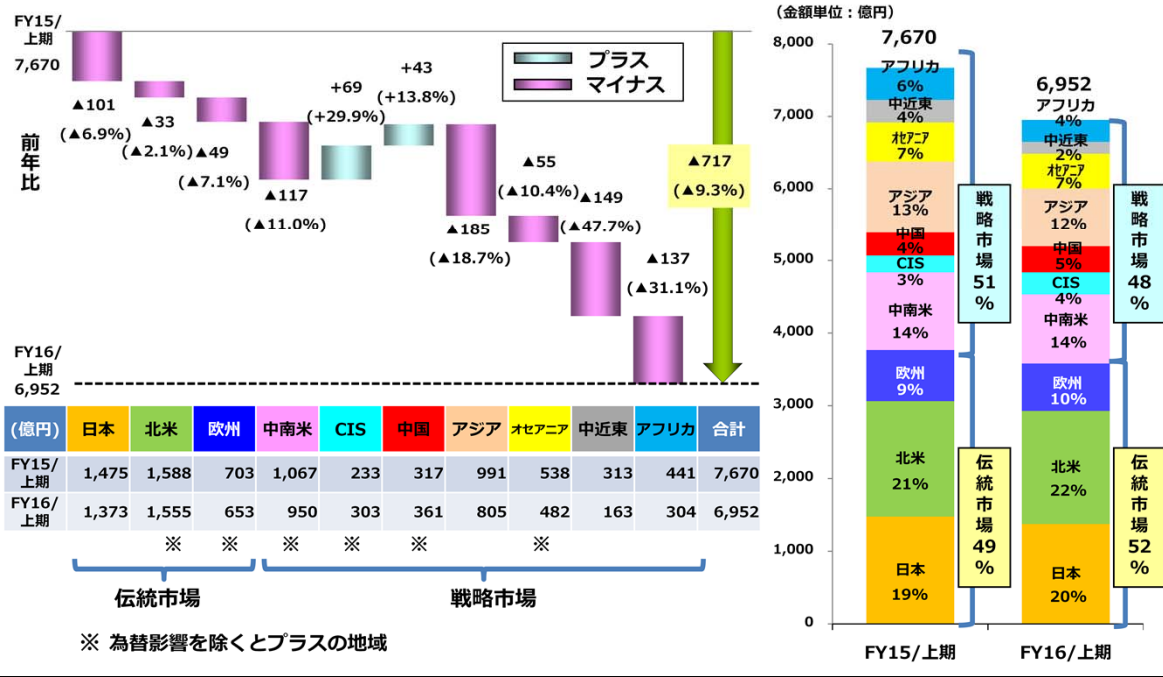
各セグメントの状況：

- 建設機械・車両
一部の戦略市場で低迷した一方、CIS・中国に加え、北米・欧州において一般建機の需要を着実に取り込んだが、円高の影響もあり、前年同期比で減収減益。尚、為替影響を除いたベースでは増収。
- リテールファイナンス【2016年度からリテールファイナンスを事業セグメントとして独立】
円高の影響と中国およびオセアニア等での資産減少の影響もあり、前年同期比で減収減益。
- 産業機械他
自動車業界向けの鍛圧機械および工作機械の販売減少と、旧コマツハウスの連結除外(※)の影響により、前年同期比で減収減益。

(※)2016年4月28日に発行済株式総数の85%に相当する株式を日成ビルド工業株式会社に譲渡完了(2016年4月28日ニュースリリース)

- 建設機械・車両の売上高は、前年同期比▲9.6%減収の6,986億円、セグメント利益は▲30.8%減益の576億円となりました。戦略市場の中近東およびアフリカなどで建設・鉱山機械需要は低迷したものの、CISや中国などに加え、伝統市場の北米や欧州で一般建設機械の需要を着実に取り込み、物量は増加しました。しかし、円高の影響もあり、前年同期比で減収減益となりました。
- リテールファイナンスは、円高の影響ならびに中国およびオセアニアなどの資産の減少が影響し、売上高は前年同期比▲14.1%減収の234億円、セグメント利益は▲44.1%減益の42億円となりました。
- 産業機械他の売上高は、▲21.6%減収の790億円、セグメント利益は▲46.1%減益の40億円となりました。自動車業界向けの鍛圧機械および工作機械の販売減少と、旧コマツハウスの連結除外による減収が影響しました。

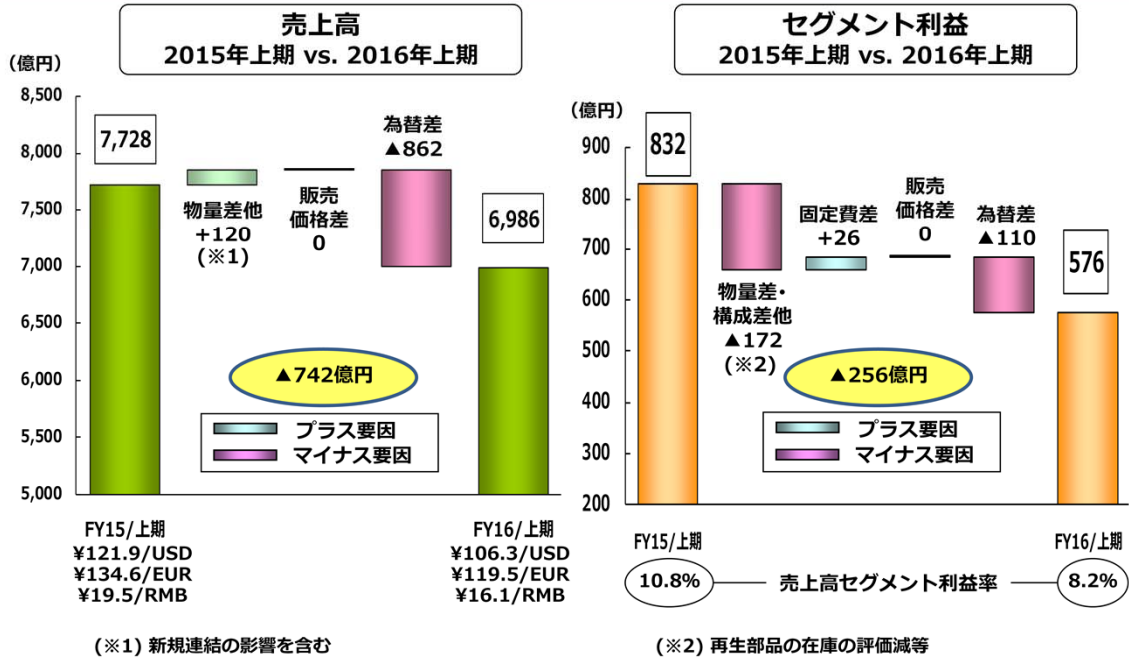
- ・外部顧客向け売上高は前年同期比▲9.3%減収の6,952億円。
- ・CISと中国を除く地域で、売上高が減少。アジア・中近東等の戦略市場における減少が大きく、伝統市場の比率が52%に増加。但し、為替影響を除くベースでは堅調な地域が多い。



□建設機械・車両の売上高は、前年同期比▲9.3%減収の6,952億円となりました。

□CISと中国を除く地域で、売上高が減少しました。アジア・中近東等の戦略市場における減少が大きく、伝統市場の比率が52%に増加しました。

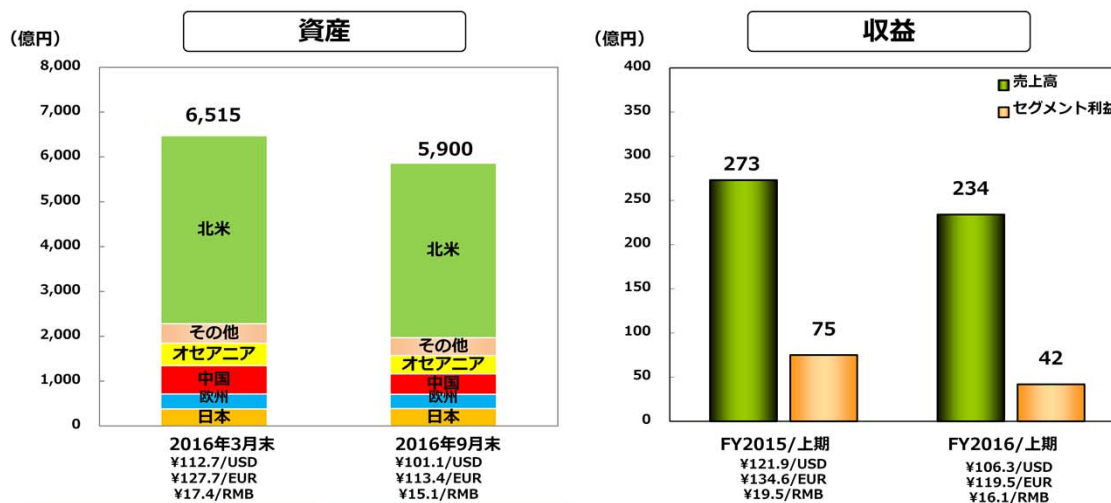
- ・円高の影響が大きく、売上高は前年同期比▲742億円の減収。セグメント利益も、同▲256億円の減益。
- ・売上高セグメント利益率は前年同期比▲2.6ポイント悪化し8.2%。



□売上高は前年同期比▲742億円の減収です。円高による為替差が大きく影響しましたが、物量差他はプラスとなりました。

□セグメント利益については、前年同期比▲256億円の減益、利益率は前年同期比▲2.6ポイント悪化し、8.2%となりました。固定費の削減を行ったものの、円高によるマイナスなどが影響しました。

- ・資産は中国・オセアニア等での落ち込みを北米で補うも、為替の影響により前年度末比で減少。
- ・売上は主に為替の影響により減少。利益は中国で引当金を追加計上したことなどに伴い、前年同期比で減少。

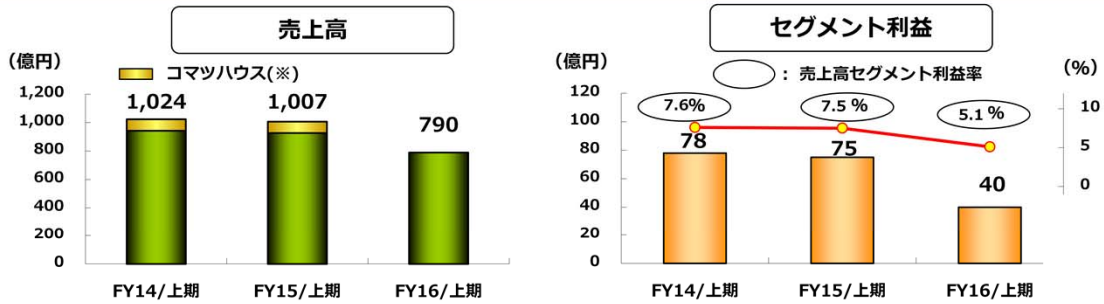


	2016/3E	2016/9E	2016/3E比
借入金	4,835	4,423	▲412
ネットベースの借入金	4,766	4,377	▲389
ネットD/Eレシオ	3.40	3.53	+0.13ポイント

□リテールファイナンスの総資産は、前年度末に比べ▲615億円減少し、5,900億円となりましたが、為替のマイナス影響が▲645億円含まれており、実質は+30億円の増加です。

□売上は主に為替の影響により減少し、利益は中国で引当金を追加計上したことなどに伴い、前年同期比で減少しました。

・自動車業界向けの鍛圧機械および工作機械の販売減少と、旧コマツハウスの連結除外(※)の影響により、売上高は前年同期比▲21.6%減収の790億円、セグメント利益率は5.1%。



売上高の内訳

金額単位：億円	2014年 上期	2015年 上期	2016年 上期	前年同期比	
				増減	増減率
コマツ産機等(プレス事業合計)	254	282	227	▲55	▲19.5%
コマツNTC [うち、ワイヤーソー]	365 [44]	364 [42]	246 [78]	▲118 [+36]	▲32.4% [+85.0%]
ギガフォトン	131	165	159	▲6	▲3.9%
コマツハウス(※)	81	80	-	▲80	-
その他	190	113	156	+42	+37.4%
合計	1,024	1,007	790	▲217	▲21.6%

(※) 2016年4月28日に発行済株式総数の85%に相当する株式を日成ビルド工業株式会社へ譲渡完了(2016年4月28日ニュースリリース)

□産業機械他部門は、自動車業界向けの鍛圧機械および工作機械の販売減少と、旧コマツハウスの連結除外による影響により、売上高は前年比▲21.6%減収の790億円となりました。

□セグメント利益は、売上減少の影響が響き、40億円、セグメント利益率は前年比で▲2.4ポイント減の5.1%となりました。

- ・ 総資産は、円高の影響及び受取手形・売掛金等の減少により、前年度末比で▲2,226億円の減少。
- ・ 株主資本比率は同+1.7ポイント増の59.7%。

(金額単位：億円)	2016年3月末 ¥112.7/USD ¥127.7/EUR ¥17.4/RMB	2016年9月末 ¥101.1/USD ¥113.4/EUR ¥15.1/RMB	増減
現金・預金（含む定期預金） [a]	1,084	890	▲194
受取手形・売掛金（含む長期売上債権）	8,753	7,728	▲1,024
棚卸資産	5,396	5,237	▲158
有形固定資産	6,977	6,455	▲522
その他資産	3,935	3,608	▲327
資産合計	26,146	23,920	▲2,226
支払手形・買掛金	2,054	1,894	▲160
借入金・社債 [b]	4,575	3,872	▲703
その他負債	3,639	3,267	▲371
負債合計	10,268	9,033	▲1,235
(株主資本比率)	(58.0%)	(59.7%)	(+1.7ポイント)
株主資本	15,174	14,273	▲900
非支配持分	703	613	▲90
負債及び純資産合計	26,146	23,920	▲2,226
ネットの借入金・社債 [b-a]	3,490	2,981	▲509
ネットD/Eレシオ	0.23	0.21	

□ 総資産は前年度末比で、▲2,226億円減少しました。為替の影響が▲1,830億円あり、これを除けば、実質は▲396億円の減少です。

□ 受取手形・売掛金は、前年度末比で▲1,024億円減少しておりますが、そのうちの約3分の2が為替の影響によります。

□ 同様に、借入金・社債についても▲703億円減少しましたが、為替の影響が▲322億円含まれております。

□ 株主資本比率は同+1.7ポイント増の59.7%となりました。

Ⅱ. 2016年度の見通し

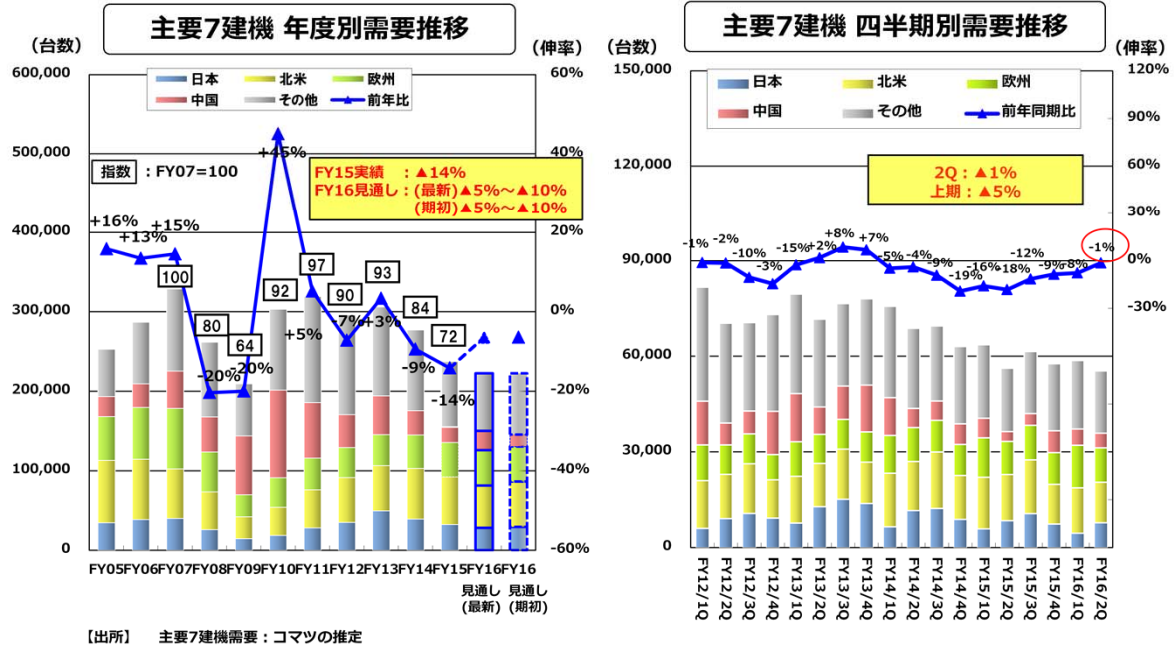
・2016年度通期の売上高・利益の見通しは4月公表値を変更致しません。

金額単位：億円	2015年度 ¥120.8/USD ¥132.4/EUR ¥19.0/RMB	2016年度 (4月公表値) ¥105/USD ¥119/EUR ¥16.2/RMB	前年比	
			増減	増減率
連結売上高	18,549	16,850	▲1,699	▲9.2%
セグメント利益	2,020	1,550	▲470	▲23.3%
その他の営業収益(▲費用)	65	▲50	▲115	-
営業利益	2,085	1,500	▲585	▲28.1%
売上高営業利益率	11.2%	8.9%	▲2.3ポイント	-
その他の収益(▲費用)	▲36	▲50	▲13	-
税引前純利益	2,048	1,450	▲598	▲29.2%
純利益*	1,374	920	▲454	▲33.1%
ROE	9.0%	6.2%	▲2.8ポイント	
1株当たり配当金(円)	58円	58円	±0円	
連結配当性向	39.8%	59.4%		

* 米国財務会計基準審議会会計基準編纂書810の適用による「当社株主に帰属する当期純利益」

□4月に公表した売上高・利益の見通しは変更致しません。

- ・2016年度第2四半期の需要は、前年同期比▲1%。
- ・中近東、アフリカ等で需要が減少したものの、中国やCIS等の堅調な地域もあり、全体としては微減。
- ・年間の需要は、地域によって多少の上振れ、下振れがあるが、全体として期初見通しから変更無し。

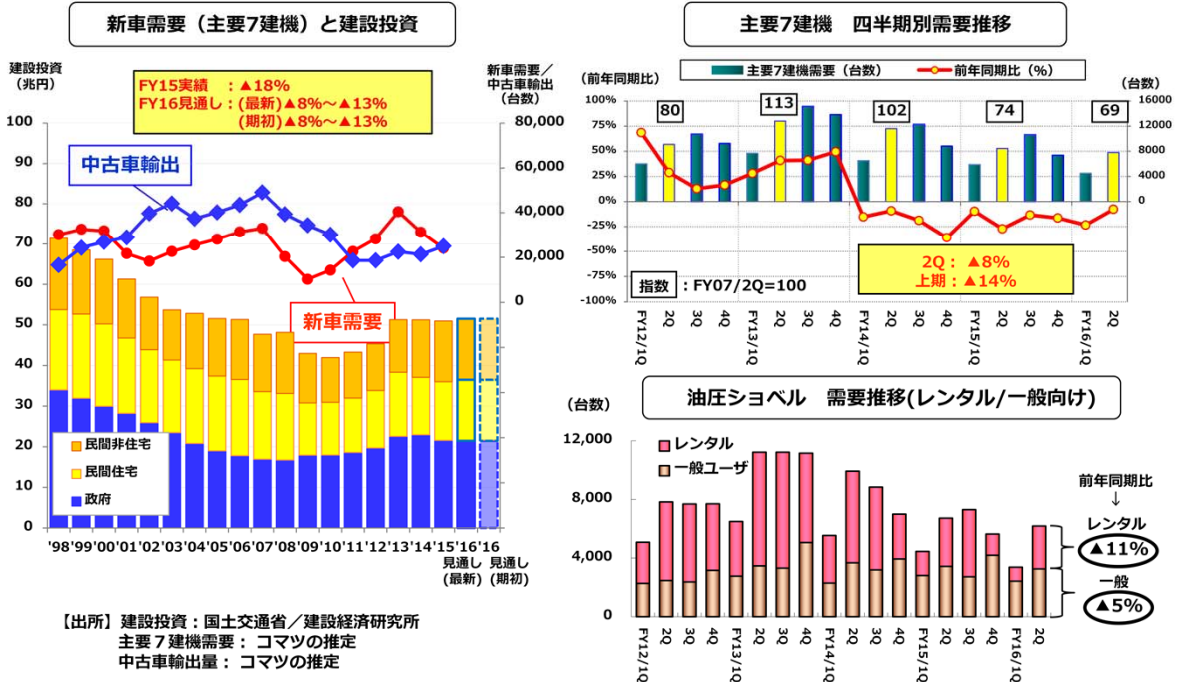


□2016年度第2四半期 (の世界需要は前年同期比▲1%の減少となった模様です。

□中近東、アフリカ等で需要が減少したものの、中国やCIS等の堅調な地域もあり、全体としては微減となりました。

□年間の需要は、地域によって多少の上振れ、下振れがありますが、全体としては期初見通しである▲5%~▲10%というレンジに変更ございません。

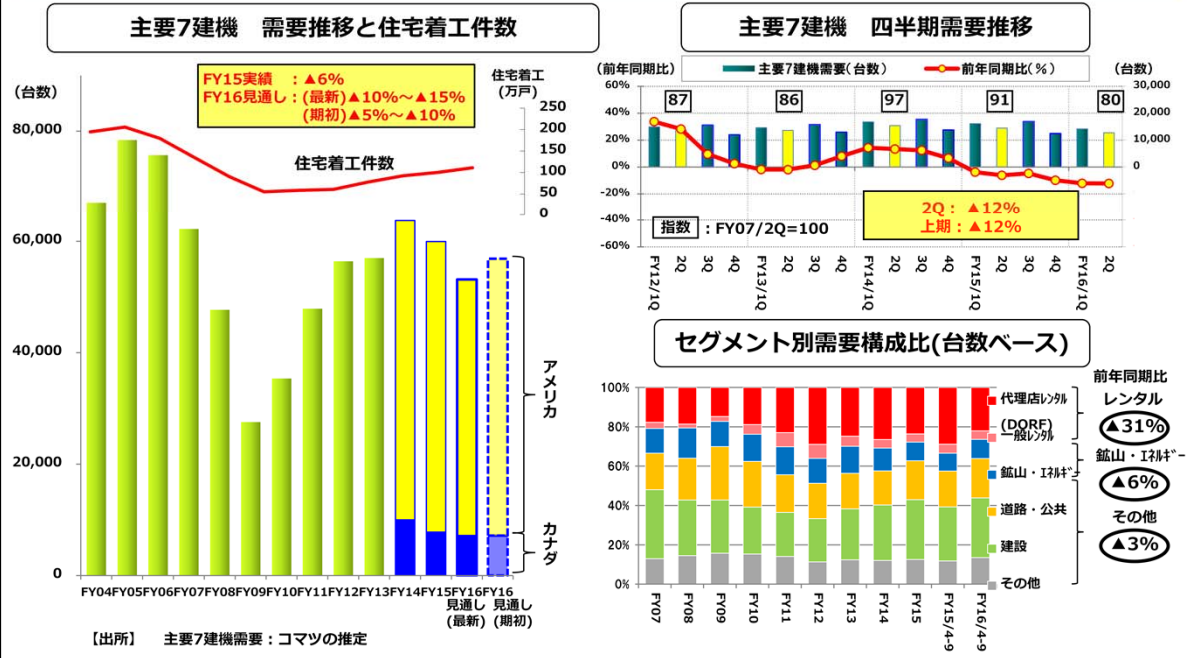
- ・2016年度第2四半期の需要は、前年同期比▲8%。
- ・レンタル向けを中心に、新排出ガス規制関連の需要が一巡した影響が継続。
- ・年間の需要は、期初見通しから変更なし。



□2016年度第2四半期の日本の需要台数は、前年同期比▲8%減少しました。

□レンタル向けを中心に、新排出ガス規制関連の需要が一巡した影響が続いています。

- ・2016年度第2四半期の需要は、前年同期比▲12%。
- ・アメリカにおいて、一般ユーザ向けの需要は引き続き堅調に推移したものの、レンタル向けは低迷。
- ・カナダはエネルギー分野向けを中心に引き続き低迷。
- ・年間の需要は、期初想定を下回る見通し。



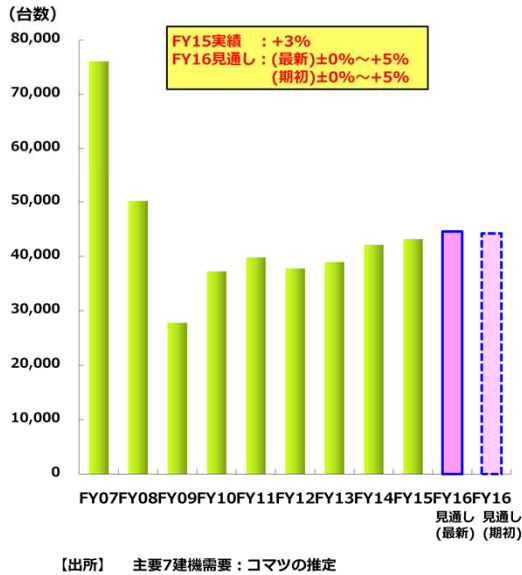
□ 2016年度第2四半期の北米の需要は、前年同期比で▲12%減少しました。

□アメリカでは、一般ユーザ向けの需要は引き続き堅調に推移したものの、レンタル向けが低迷しました。

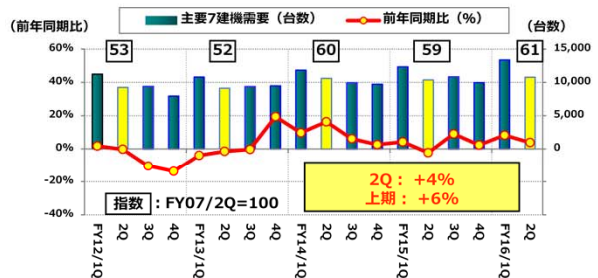
□カナダはエネルギー分野向けを中心に引き続き低迷しています。

- ・ 2016年度第2四半期の需要は、前年同期比+4%。
- ・ 主要市場のドイツに加え、北欧・南欧が堅調に推移。
- ・ 年間の需要は、期初見通しから変更無し。

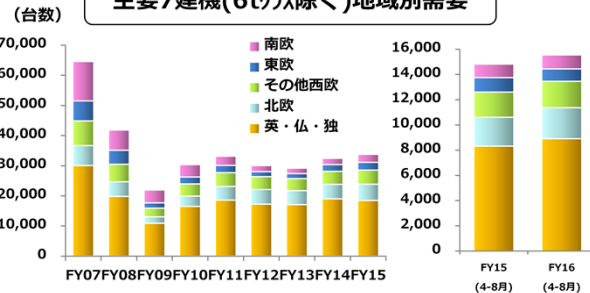
主要7建機 年度別需要推移



主要7建機 四半期需要推移



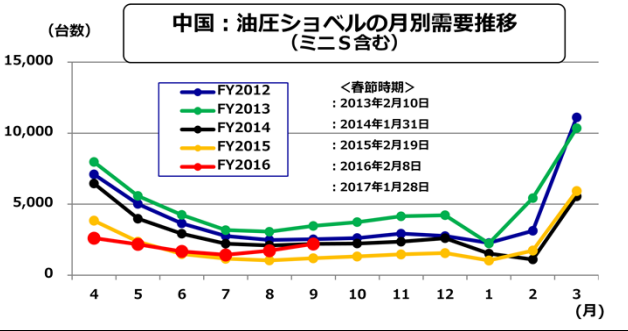
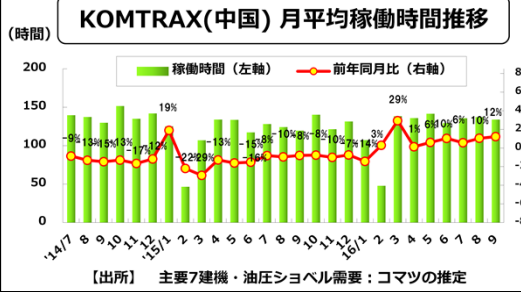
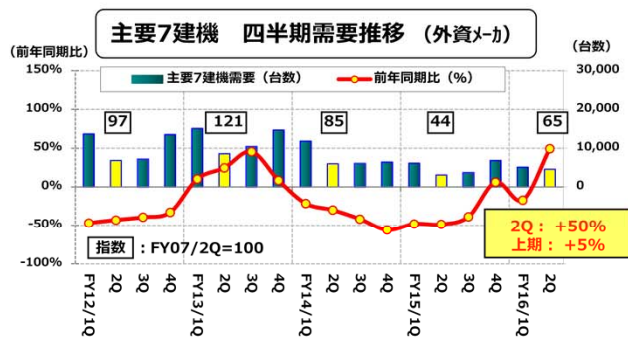
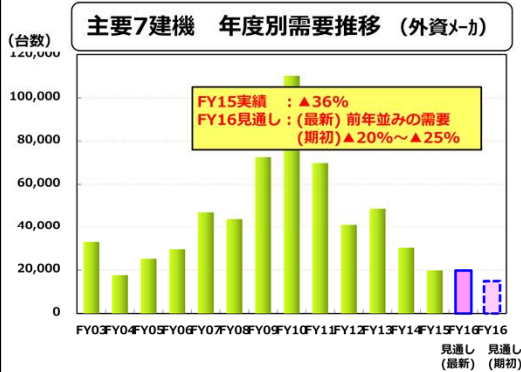
主要7建機(6tクラス除く)地域別需要



□2016年度第2四半期の需要は、前年同期比+4%増加となった模様です。

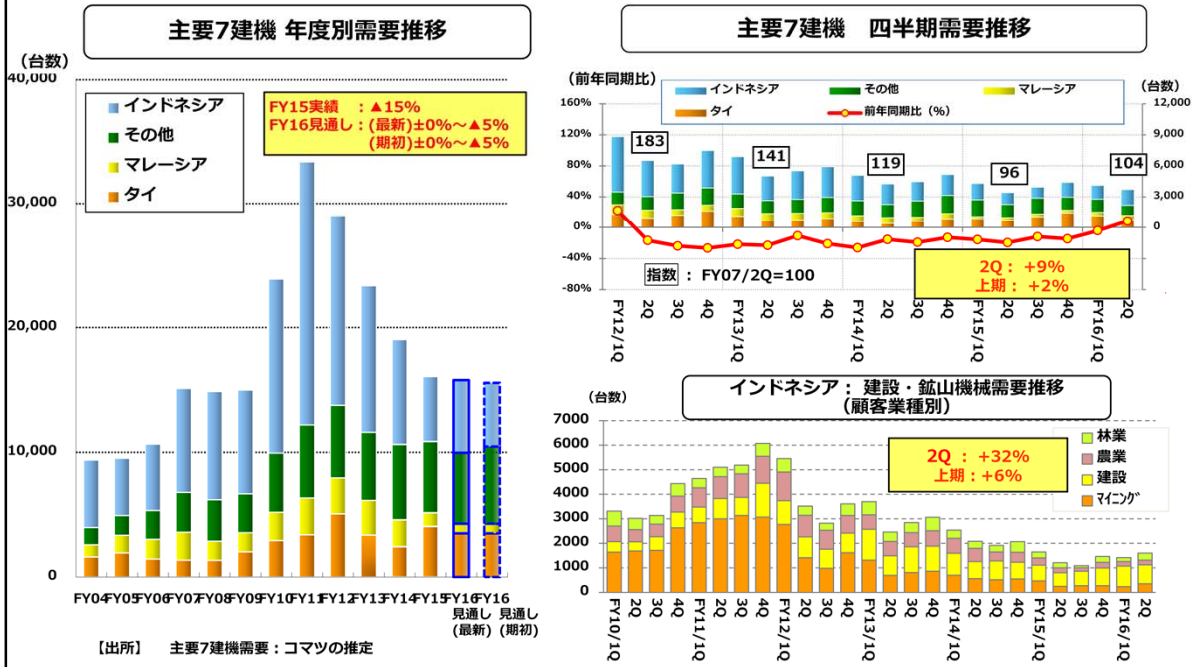
□主要市場のドイツや、北欧、南欧も堅調に推移しました。

- ・ 2016年度第2四半期の需要は、前年同期比+50%。
- ・ 全国的にインフラ工事が進行し、一般建機の需要が伸長。
- ・ 年間の需要は、足元の需要が高まっていることから、期初想定は上回る見通し。



□2016年度第2四半期の中国の需要は、全国的にインフラ工事が進行したことにより一般建機の需要が伸長し、前年同期比+50%の増加となりました。

- ・ 2016年度第2四半期の需要は、前年同期比+9%。
- ・ 最大市場のインドネシアでは想定より需要が堅調だったことに加え、タイやマレーシアが堅調に推移。
- ・ 年間の需要見通しは、期初想定から変更なし。

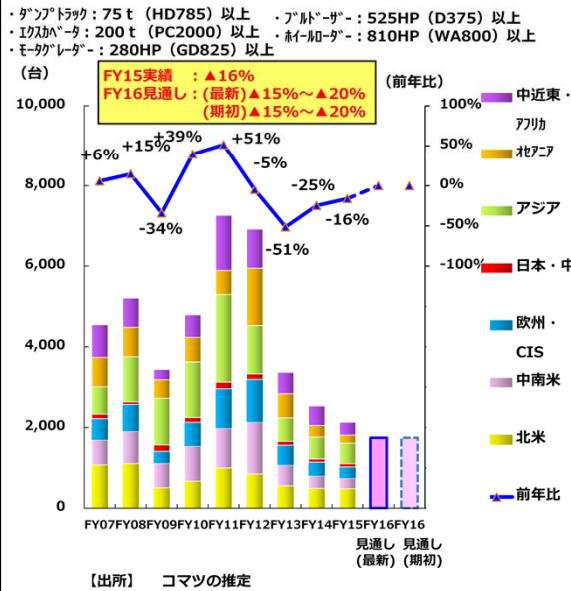


□ 2016年度第2四半期の東南アジアの需要は、前年比+9%増加となりました。

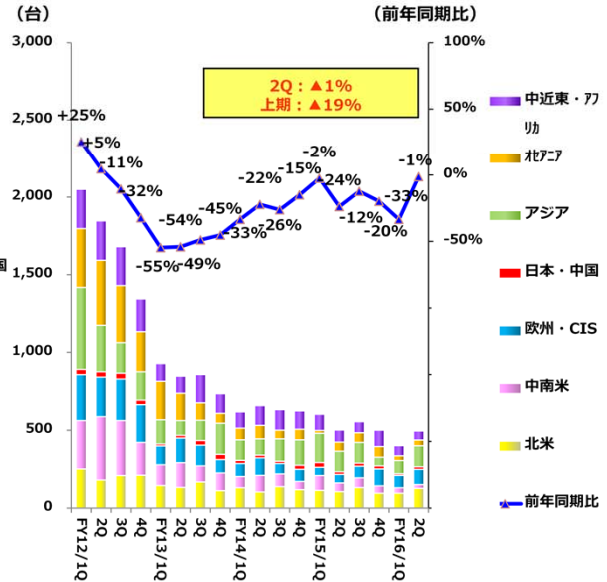
□ 最大市場のインドネシアで、まだ低い水準ではありますが、想定より需要が堅調だったことに加え、タイやマレーシアも堅調でした。

- ・2016年度第2四半期の鉱山機械の世界需要は、前年同期比▲1%。
- ・年間の鉱山機械の需要は、期初見通しから変更無し。

鉱山機械 年度別需要推移



鉱山機械 四半期別需要推移

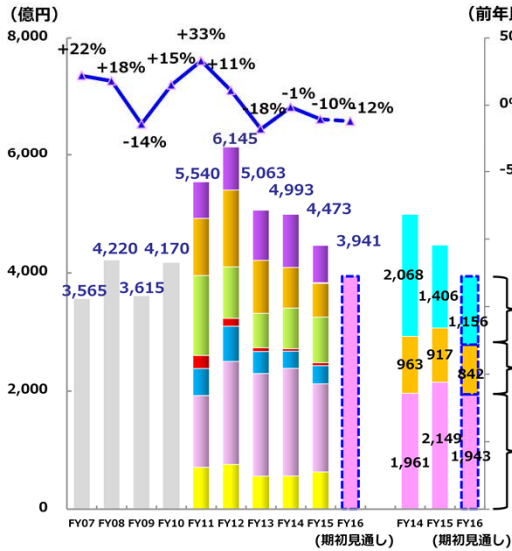


□2016年度第2四半期の鉱山機械の需要は前年同期比▲1%減となった模様です。

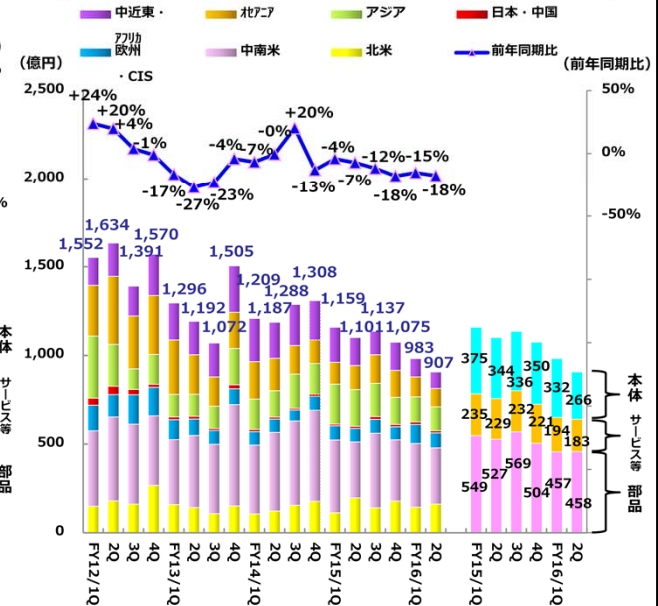
□2016年に入ってから鉱山機械市場は、ポジティブな面とネガティブな面が交錯する状況となっていますが、本年度の新車需要の見通しについては4月公表時から変更ありません。鉱山機械の需要の回復開始は2017年度以降になると考えております。

・2016年度第2四半期の売上高は、主に円高の影響で前年同期比▲18%減の907億円。

鉱山機械 年度別売上高 (部品・サービス含む)

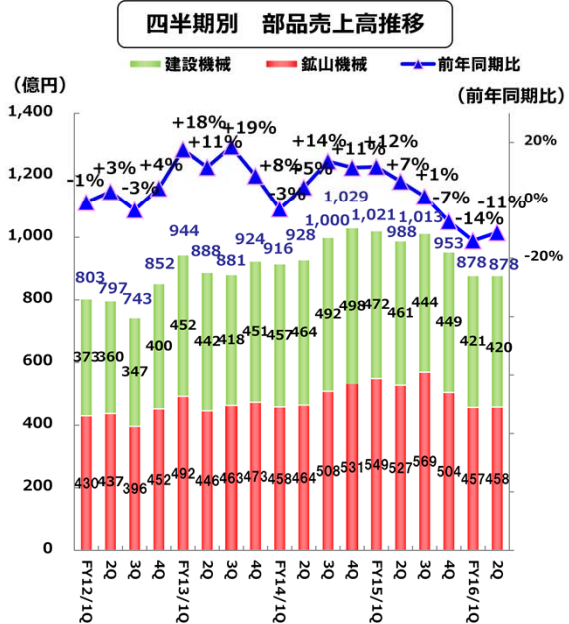
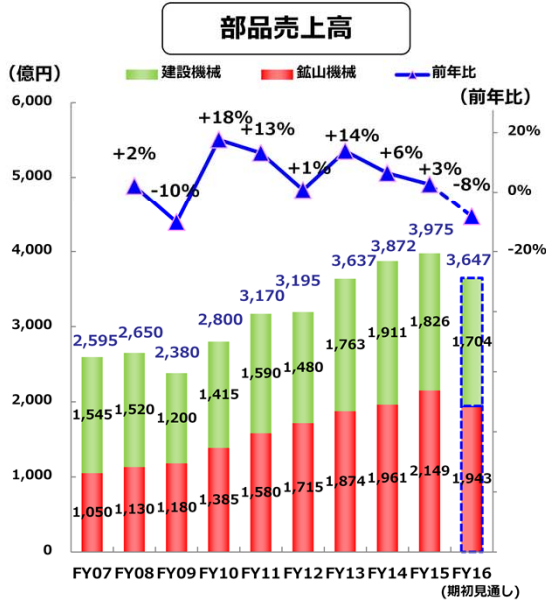


鉱山機械 四半期別売上高 (部品・サービス含む)



□2016年度第2四半期の鉱山機械の売上高は、前年同期比▲18%減の907億円、為替の影響を除くと▲2%の減少となりました。本体・サービスの売上げが減少したことによるものです。

- ・ 2016年度第2四半期の部品売上高は、前年同期比▲11%。
- ・ 主に円高の影響で部品売上高は減少しているが、為替影響を除くと堅調に推移。



□ 2016年第2四半期の部品の売上高は、前年同期比▲11%の878億円、為替の影響を除くと+4%増（一般建機が+6%増、鉱山機械は+3%増）となりました。

- ・ 通期の売上高の見通しは今回変更致しません。
 - 下期に為替リスクや地域毎の需要の強弱という変動要因があるものの、全体として4月公表値を達成できる見通し。
 - 産業機械他セグメントの今後の需要については弱含み。
- ・ 上期の進捗状況については以下の通りです。

上期の売上高の進捗について

<建設機械・車両の上期売上高>

(億円)	4月公表	上期実績 (6ヶ月)	進捗
日本	3,090	1,373	44%
北米	3,090	1,555	50%
欧州	1,370	653	48%
中南米	2,000	950	48%
CIS	400	303	76%
中国	610	361	59%
アジア	1,660	805	48%
オセアニア	1,020	482	47%
中近東	510	163	32%
アフリカ	590	304	52%
計	14,340	6,952	48%

<建設機械・車両>

- ・ 上期の売上高は、地域によって多少の上振れ、下振れがあったものの、全体として期初想定内。尚、地域別の補足説明は次の通り。
 - CIS： 金鉱山を中心に鉱山向け需要が増加し、売上は拡大。
 - 中近東：原油安などの影響により湾岸諸国の需要が大幅に減少し、売上げは低迷。
- ・ 売上高の進捗率は全体で48%と例年のペース。

<リテールファイナンスおよび産業機械他>
上期の売上高はほぼ社内計画通り。

- ・ コマツは、本年7月21日に、当社の米国における完全子会社であるコマツアメリカ株式会社を通じて、「ジョイ・グローバル社」の買収を行う予定であることを公表しました。
- ・ 本年10月19日(現地時間)には、ジョイ・グローバル社の臨時株主総会において、本買収に関する合併契約の承認が行われました。
- ・ 今後、関連する国において競争法に基づき必要となる承認取得を経た上で、本買収を完了する予定です。



【写真:コマツ 大橋社長(左)とジョイ・グローバル社 Doheny社長】



・コマツは、運転室を無くした全く新しいコンセプトの無人専用運搬車両「Innovative Autonomous Haulage Vehicle」を、米国ラスベガスで本年9月に開催された鉱山機械見本市「MINExpo INTERNATIONAL® 2016」において実機展示しました。

【業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項】

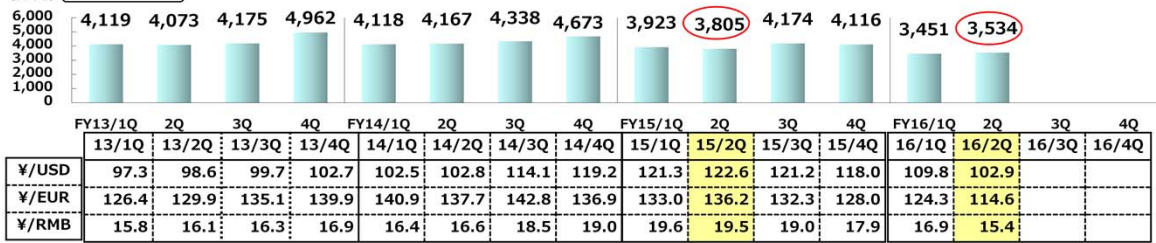
前述の将来の業績予想に関する予想、計画、見通しなどは、現在入手可能な情報に基づき当社の経営者が合理的と判断したものです。実際の業績は様々な要因の変化により、本資料の予想、計画、見通しとは大きく異なることがありうることをあらかじめご理解ください。そのような要因としては、主要市場の経済状況および製品需要の変動、為替相場の変動、および国内外の各種規制ならびに会計基準・慣行等の変更などが考えられます。

コマツ 経営管理部 TEL: 03-5561-2687
FAX: 03-3582-8332
<http://www.komatsu.co.jp/>

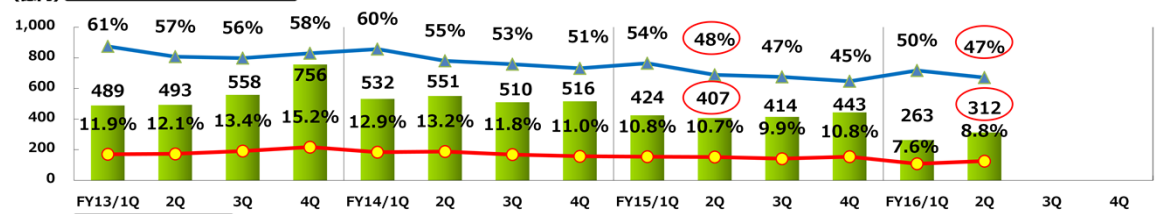
参考資料

2015年度まで建設機械・車両セグメントに含まれていたリテールファイナンスを、2016年度より事業セグメントとして独立致しました。
2013年度以降も適宜して組替表示しております。

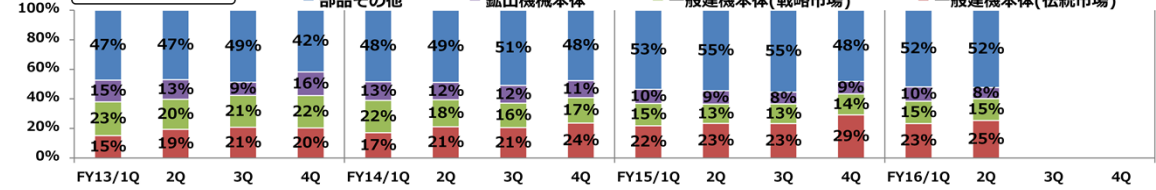
(億円) 売上高



(億円) セグメント利益

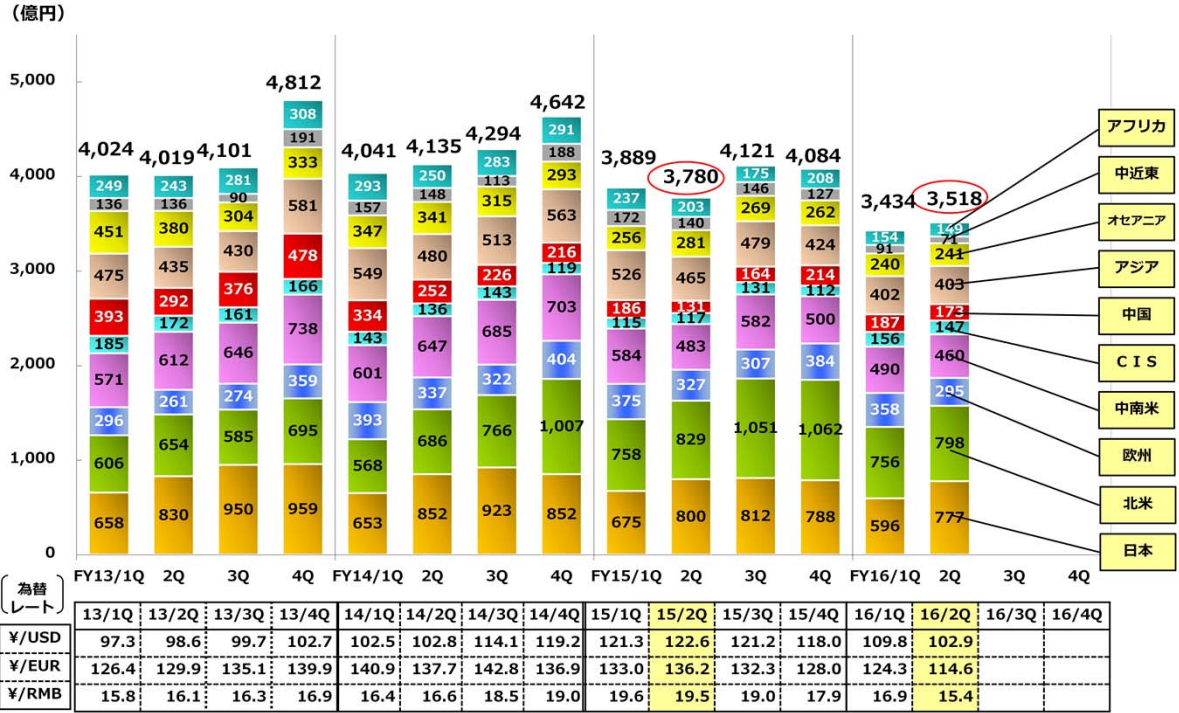


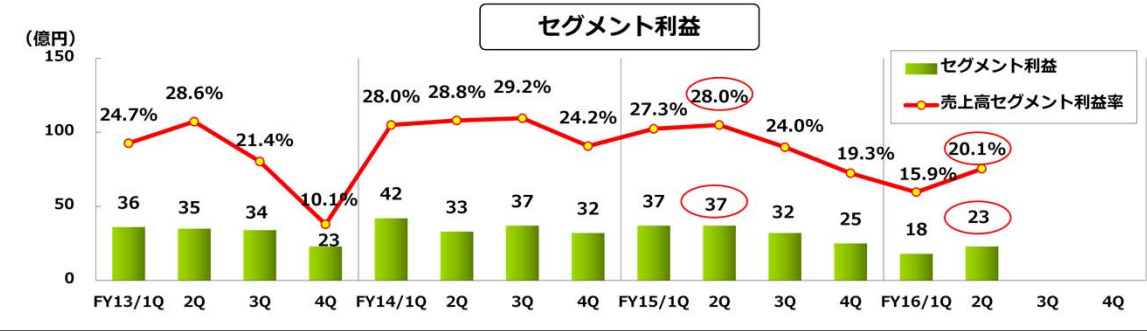
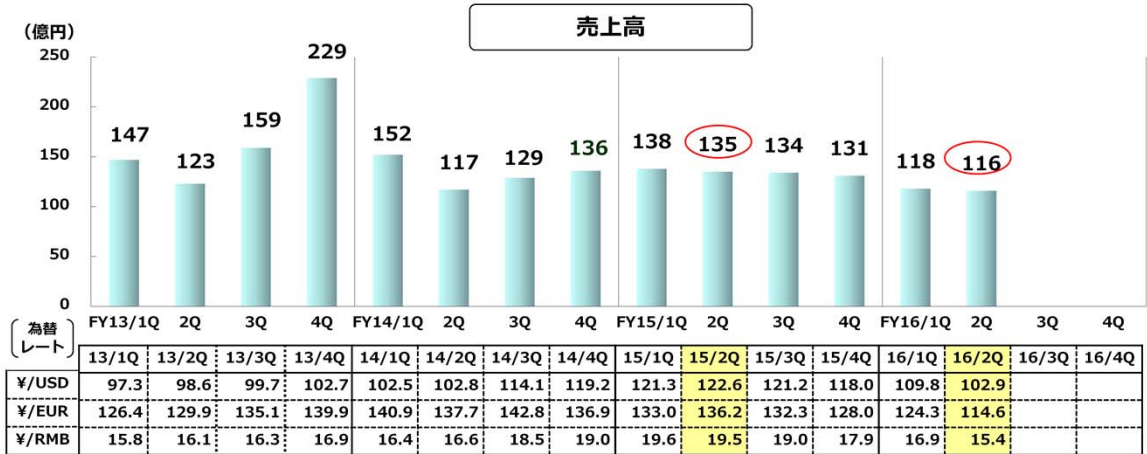
売上高構成比

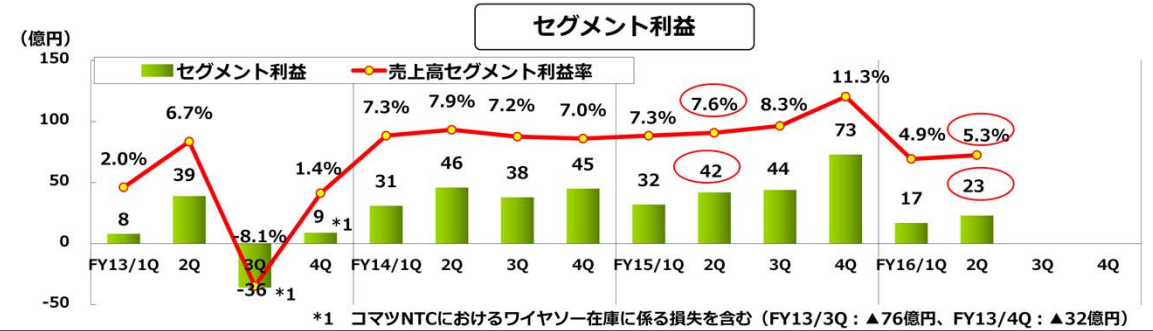
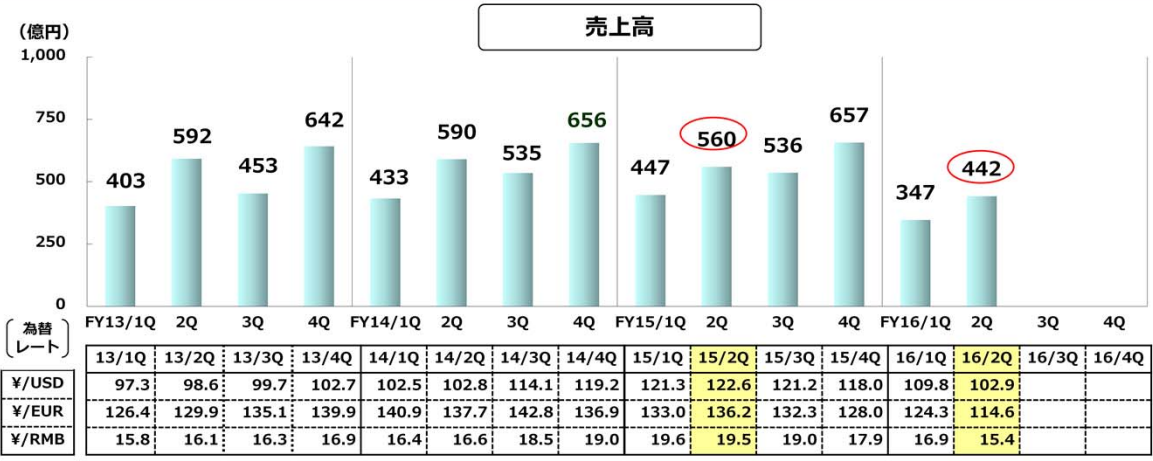


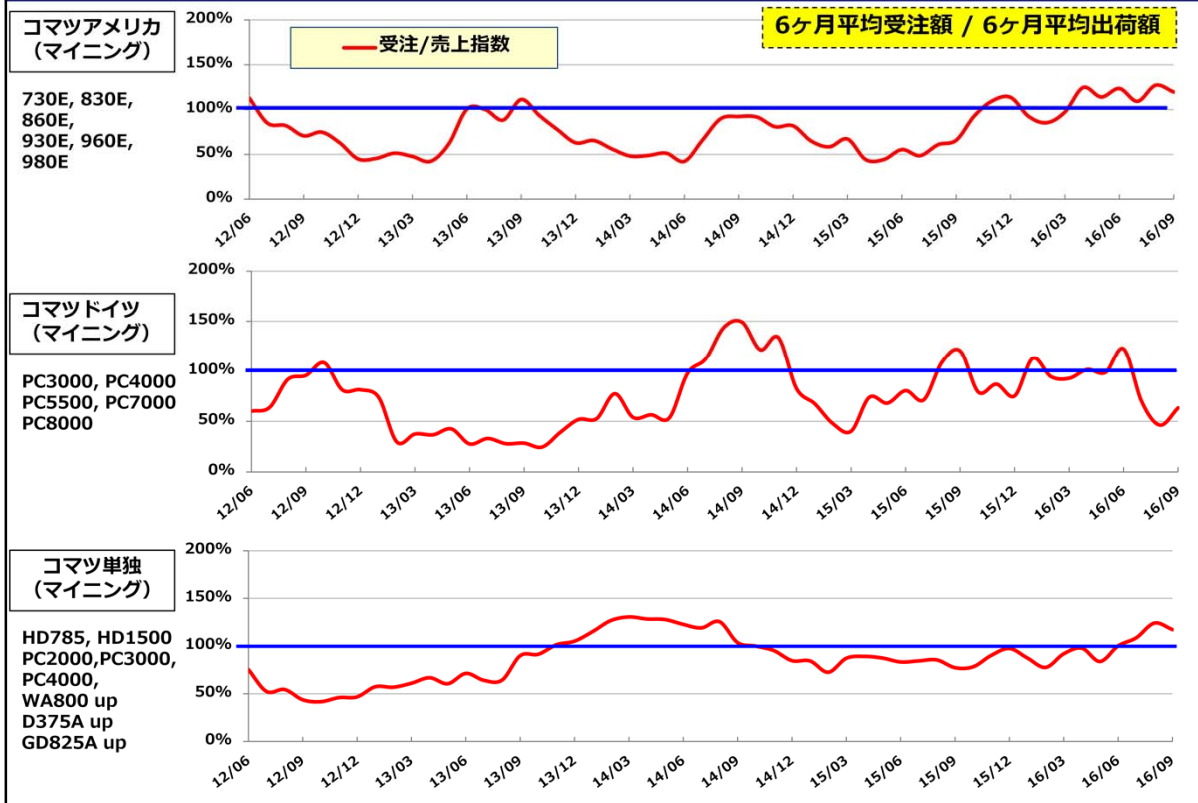
<建設機械・車両> 四半期毎の地域別売上高（外部顧客向け）

2015年度まで建設機械・車両セグメントに含まれていたリテールファイナンスを、2016年度より事業セグメントとして独立致しました。
2013年度以降も適及して組替表示しております。



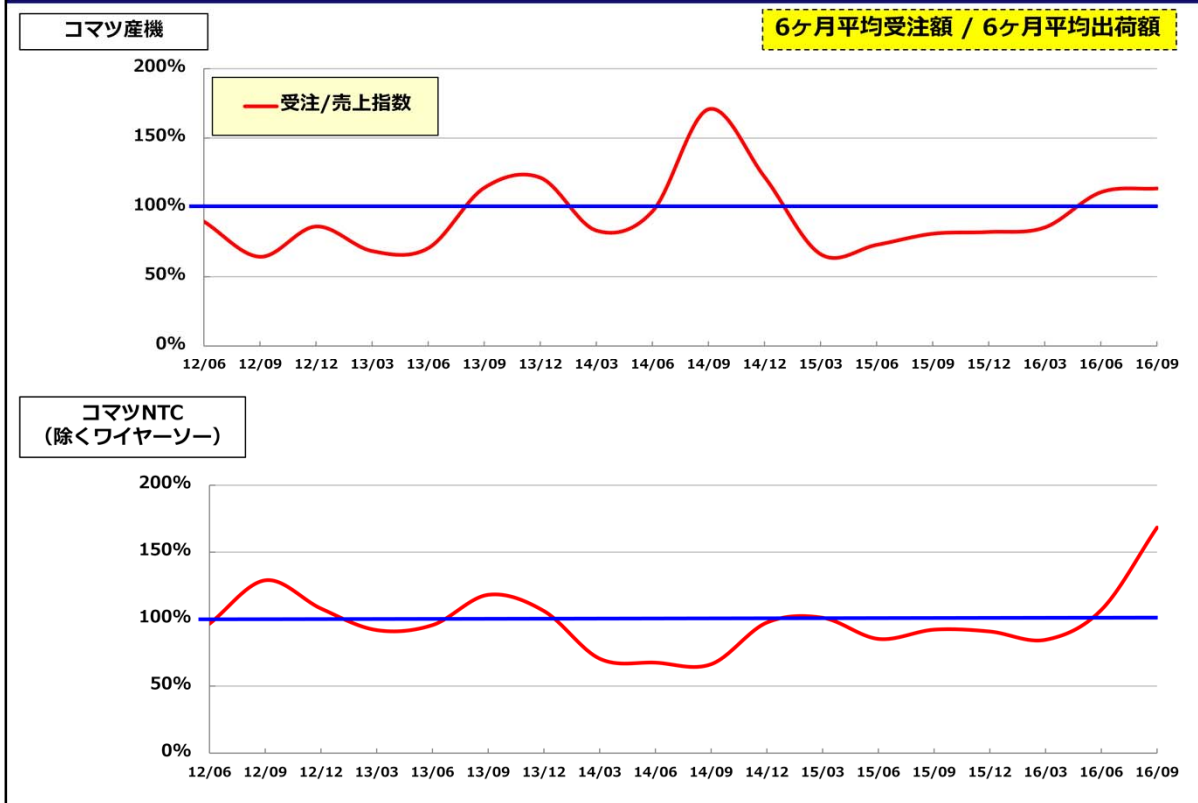






□ 鉱山機械本体の、受注と売上の指数の推移を示しております。

□ グラフは、直近6ヶ月間の新車の受注額を、同じく6ヶ月間の売上高で割った指数の推移です。



□産業機械の、受注と売上の指数の推移を示しています。グラフは、直近6ヶ月間の受注額を、同じく6ヶ月間の売上高で割った指数の推移です。